

NO14 北条氏台頭と執権政治

頼朝の死後、幕府内で北条氏が他の有力御家人を排除し、**執権としての地位を確立するプロセス**が重要ポイント。排除された有力御家人を押さえておく。朝廷の勢力拡張をはかる後鳥羽上皇は**承久の乱**を起こして敗れ、**公武二元支配**は公家優位から武家優位へと変化する。ポイントは**承久の乱後に幕府が行った処理**である。丁寧に整理したい。

NO109 北条義時 2000-日本史 A 選択

執権政治期の職制に関して、義時執権期に設けられたものとして、正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 評定衆 ② 引付衆 ③ 六波羅探題 ④ 連署

正解→③

NO110 承久の乱 2001-本 正誤

承久の乱に関連して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 後鳥羽上皇は、新たに北面の武士を置いて軍事力の増強をはかった。
② 乱後、守護の収入を保証するために、幕府は新補率法を定めた。
③ 乱の結果、後鳥羽・土御門・順徳の3上皇が配流され、仲恭天皇が廃された。
④ 白河上皇以来続いていた院政という政治形態は、この乱によって終わりを告げた。

正解→是非、教科書94頁を開いて青マーカーを院政の継続箇所。また公武二元支配の幕府優位にも。正解は③

NO111 承久の乱と御家人 2017本

鎌倉幕府が幕府側に味方した武士に与えた文書である次の史料に関して述べた次の文adについて、正しい組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

史料

備後国地毗庄(注1)の事、地頭重俊の子息太郎、京方において死去せしむといえども、同次郎(注2)御方において合戦の忠を致しおわんぬ。しかれば重俊の地頭職、相違なく安堵せしむべきの状、仰せにより下知くだんの如し(注3)。

(承久3(1221)年7月26日関東下知状)

- (注1) 備後国地毗庄：現在の広島県にあった荘園。
(注2) 同次郎：重俊の子息である次郎。
(注3) 仰せにより下知くだんの如し：幕府の命令は以上の通りである。
a 次郎は、後鳥羽上皇側の味方として承久の乱に参加した。
b 次郎は、鎌倉幕府側の味方として承久の乱に参加した。
c 息子が鎌倉幕府側に味方したので、重俊は地頭職を安堵させた。
d 息子が後鳥羽上皇側に味方したので、重俊は地頭職を没収された。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

正解→御方において合戦の忠を致しおわんぬとある。地頭職を無事安堵されたのだから幕府方について戦ったことがわかる。正解→③

NO112 鎌倉と京都 2006-本 年代順配列

鎌倉時代の、鎌倉と京都の間の交渉に関して述べた次の文I～IIIについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- I 『新古今和歌集』が編纂され、鎌倉の將軍のもとに届けられた。
II 御成敗式目が制定され、京都の幕府出先機関に送られた。
III 鎌倉で平頼綱が滅ぼされ、その知らせが数日のうちに京都に伝わった。

- ① I-II-III ② I-III-II ③ II-I-III ④ III-II-I

正解→後鳥羽上皇の命で新古今編纂、北条泰時の御成敗式目、平頼綱は霜月騒動のころ、答えは①となる。

NO113 北条時頼 2001-追

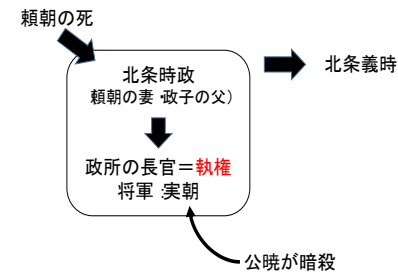
北条時頼が執権であった時期に起こったことがらとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 藤原(九条)頼経が將軍に就任した。
② 宝治合戦で三浦泰村が滅んだ。
③ 半済令が出された。
④ 異国警固番役が始まった。

正解→実朝暗殺後九条頼経が迎え入れられる、半済令は室町時代、異国警固は北条時宗、②が正解。

まずは北条氏台頭の流れをパネルで確認

執権政治は將軍になれなかった北条氏の政治だ。東大の入試でも出題されている。



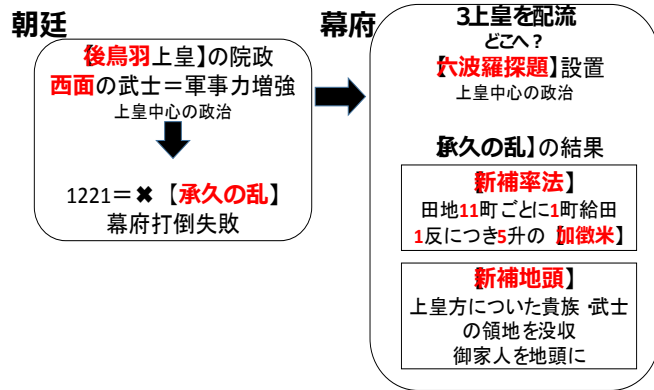
2代頼家を幽閉し実朝將軍に。義時政所の長官につく。この地位を執権といい、やがて侍所の長官も兼務、権力掌握。

ここで幕府と朝廷の関係をみてみよう！武士の政権＝鎌倉幕府に不満を抱く後鳥羽上皇の西面の武士は定番。承久の乱はその後の影響が一番大事な論点だ。例えばこんな問題もある。

NO114 執権政治の時期 2010年-追 年代順配列

- 1. 後鳥羽上皇を隠岐に、順徳上皇を佐渡に配流した。
2. 後嵯峨上皇の皇子宗尊親王を、都から迎えて將軍とした。
3. 有力御家人の安達泰盛が、御内人代表の平頼綱に滅ぼされた。

正解→ 1-2-3

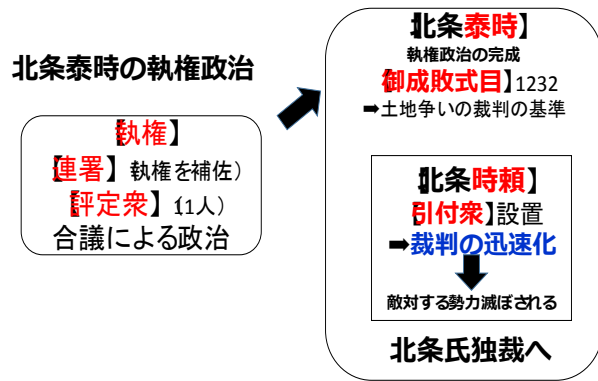


教科書 94 頁参照

→院政の継続、公武二元支配で幕府優位へ

北条泰時の時代

執権政治完成の時代、すなわち泰時は執権と執権を補佐する連署をおき、その下に 11 人の評定衆を選び合議による政治を行った。



NO115 史料問題 2015 本

1232 年、鎌倉幕府の執権北条泰時の弟重時は⑥六波羅探題の任についていた。この年、7 月に泰時らによって御成敗式目が制定され、その約 2 か月後、⑥京都に滞在していた重時に泰時が送った書状には、式目を制定するにあたっての考え方として、次のようなことが記されていた。史料

さて、この式目をつくれ候事は、なにを本説(注1)として被注載之由、人さだめて謗難を加ふる事候歟、ま事にさせる本文にすがりたる事候はねども、ただ【ア】のおすところを被記候者也。……【イ】の人への計らひのためばかりに候。これによりて京都の御沙

Pain is inevitable Suffering is optional

汰、【ウ】のおきて聊も改まるべきにあらず候也。……

(注1) 本説：根拠 (注2) 謗難：非難 (注3) 本文：典拠になった文
空欄ア～ウに入る語句の組合せとして正しいものを、次の正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 律令 イ 公家 ウ どうり (道理)
- ② ア 律令 イ 武家 ウ どうり (道理)
- ③ ア どうり (道理) イ 公家 ウ 律令
- ④ ア どうり (道理) イ 武家 ウ 律令

正解：ア→どうり、イ→武家、ウ→律令なので→④

北条氏の他氏排斥シート

北条	将軍	上皇	政治
【時政】	【源頼朝】	【後鳥羽】	頼朝死去 頼家の親裁停止 1199→有力御家人 13 名の合議制 ※梶原景時の乱 1200 ※【比企能員】の乱→頼家を伊豆の修善寺に幽閉 実朝を将軍に擁立し、時政、政所の別当となる=【執権】と号す。頼家殺害
	源頼家		※皇山重忠の乱 1205 義時、執権に就任 1205 ※【和田義盛】の乱 1213 →義時、侍所別当兼任 = 執権の地位確立 実朝、甥の公暁に暗殺される 1219 →源氏の将軍断絶 ※【承久の乱】1221→【六波羅探題】の設置 ←後鳥羽上皇→隠岐配流、順徳上皇→佐渡配流 【新補地頭】設置 1223 →上皇方から没収した領地を確保するため
【義時】	【源実朝】		
【泰時】	【藤原頼経】	後高倉	【連署】設置 1225 →初代:北条時房 【評定衆】設置 1225→有力御家人の合議体制 藤原(九条)頼経、将軍正式就任 1226 = 撰家将軍 【後成敗式目】制定 1232 = 初の武家法 但し律令や公家法・本所法を否定するものではなかった。
【時頼】	藤原頼嗣	後嵯峨	※【宝治合戦】1247→三浦泰村一族滅亡 評定衆の下に【引付衆】設置 1249→裁判の公正・迅速化 僧: 叡尊 鎌倉に招かれ→律宗 広める
	【宗尊】親王		宗尊親王 (後嵯峨上皇の皇子)、将軍就任 1252 = 皇族将軍 時頼、執権を退く 1256→その後も実権握る ※北条氏の独裁化進む